

政務活動に係る活動報告書

会 派 名	蔵王
活 動 項 目	先進地視察・研修会開催・○研修会参加・その他（ ）
年 月 日	令和4年4月12日
参 加 者 名	佐藤光義 谷江正照 石山正明 尾形みち子
視 察（ 研 修 ） 地	全国市町村国際文化研修所よりオンラインにより受講
目 的	SDG s についての研修のため
調査（研修）項目等	行動する SDG s ～ごみからのアプローチ～
概 要	<p>ごみは昭和 36 年から増え出し、2000 年がピーク、その後、様々なリサイクル法ができ現状に至りました。</p> <p>ちなみに、ごみを燃やす日本は、世界的には珍しい部類とのことで、脱炭素に向けて、これからは消却処理の見直しも必要になる可能性も示唆されました。</p> <p>残飯による食品の損失は約 1 1 兆円で、水産資源の売上高に匹敵することや、ごみにおける容器などの容積を減らす事は、収集運搬費用の減に効果が高いとの事でした。</p>
所 感	<p>食品ロスの縮減や容器や包装プラスチック、製品プラスチックをどのように分別リサイクルして行くか、自治体を中心となり検討をする事や、今後は必要とされる分野での 3R 推進の際に、環境負荷をいかに減らしていくかが重要であり、又、そこにお金が回る仕組みを付けて続けられる環境づくりの必要性を感じてまいりました。プラスチックごみを、燃やす事と埋め立てる事以外の取り組みとして再資源化や再燃料化、更にはインドなどで実用化されている道路舗装資材としての活用は、インフラコストの削減に資すると考えます。かさばるプラスチック容器などの、収集運搬費用の減に向けた取組や実効性が高いものは喫緊に取り組むべきものと感じた研修でした。</p>